

タイトル…『汐製菓会社の新作㉹グミ㉹』

登場人物…

汐（しお）（30代）…汐製菓会社社長。斬新なアイデアを次々と生み出す快活な人物。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、お菓子業界を驚かせる商品を開発する。

塩田（しおた）（30代）…汐の秘書。真面目で心配性だが、大のお菓子好き。汐の無茶な発想に振り回されながらも、内心楽しんでる。

シーン1…汐製菓の社長室

（社長室。汐はデスクの前で何かを考え込んでいる。塩田がノートを持って立っている。）

汐：「うーん、次の新商品は何にしようかなあ…。普通のお菓子じゃつまらないし、何かインパクトのあるものがないんだよなあ。」

塩田：「（おずおずと）社長、前回の『納豆グミ』が話題になりましたけど、評判は…微妙

でしたよね。今回も少し控えめに…」

汐「いや、控えめじゃ駄目なんだよ、塩田君！
お菓子業界は常に新しさを求めているんだ。挑
戦こそが成功への道だよ！」

塩田「(困ったように)そうですね…。でも、
どんな新しさが求められているのかが、ちよ
つとわかりにくくて…。最近の流行りは、優
しい甘さとか、健康志向のお菓子とかですけ
ど…」

汐「流行なんて関係ない！俺たちは、流行を
作る側なんだ！」

(汐が突然立ち上がり、机をバンツと叩く。)

汐「決めた！今度は『ビーフジャーキー並み
に堅いグミ』を作ろう！」

塩田…「(驚きつつ) えっ!? ビーフジャーキー
ー並みに堅いグミですか? それって、お菓子
として成立するんでしょうか?」

汐…「これだよ、塩田君! 堅いお菓子なんて今
まで無かった。だからこそ、斬新なんだ!」

塩田…「(心の声) いや、社長。堅すぎるお菓
子ってどうなんでしょうか…。クレームが来
そうな気が…。でも社長がこう言ったら、も
う止められない!」

汐…「よし! さっそく試作品を作ってみよう。
俺たちの新たな挑戦だ!」

シーン ♪…製菓工場

(製菓工場。塩田が職人たちと一緒に試作品
を見ている。)

職人 ▶…「塩田さん、社長のご指示通り、ビー

フジャーキー並みに堅いグミを作りました。
でも、これ：本当に堅いですよ。」

塩田…「(不安そうに) 見た感じ、かなりの力
が必要そうですね…。どれ、私も試してみま
す。」

(塩田がグミを手に取り、口に入れて噛んで
みる。彼女はすぐに目を大きく見開き、顔を
歪める。)

塩田…「(苦笑いしながら) うっ：これは確か
に堅い：！でも、堅すぎて、噛むのが大変で
すね…。お年寄りや子供には厳しいかもしれ
ません。」

職人B…「私も試してみましたが、歯が折れそ
うになりましたよ。これは何か、別の用途に
使えそうな堅さですね：」

塩田…「(心の声)これは本当に大丈夫なんでしょうか…。でも、社長のアイデアだし…。どうにかして成功させないと。」

シーン…社長室

(再び社長室。塩田が汐に試作品を持ってきている。)

汐…「お、待ってたよ、塩田君！試作品ができたんだろう？さっそく味見しようじゃないか！」

塩田…「はい…。ただ、社長、かなり堅いので、くれぐれもお気をつけて。」

汐…「大丈夫さ！俺は何でも挑戦するんだ！」

(汐が自信満々にグミを手に取り、口に入れる。しかし、すぐに彼の顔が引きつる。)

汐「おお：これは：かなりの堅さだな：！顎が強くなりそうだ：！」

塩田「（心配そうに）社長、大丈夫ですか？歯が欠けたりしませんでしたか？」

汐「ハハハ、大丈夫さ！これは噛み応えがあって面白いじゃないか！これでいこう、塩田君！」

塩田「（困惑しながら）ほんとうにこれでいいんですか：？海外でも受け入れられるでしょうか？」

汐「もちろんだよ！『固くて美味しい』っていう新しいコンセプトで、全世界を虜にするんだ！」

シーン → 販売準備

（製品化が進み、塩田が他の社員たちと一緒に

に販促会議を行っている。）

社員○：「社長が新しいグミを発表するって聞いて、かなりの注目が集まっています。でも、このグミの堅さはちよつと：どうなんでしょう。」

社員D：「プロモーションビデオを作ろうと思っ
てますが、『噛み応え抜群！』とか『挑戦者
求む！』とか、キャッチコピーをどうし
ようか悩んでいます。」

塩田：「（考え込みながら）確かに：噛み応え
を強調するのはいいかもしれませんが、でも、
それだけじゃ不安です。もつとユニークなア
プローチが必要かも。」

社員○：「例えば：？」

塩田：「そうですね：。この堅さを前向きに捉

えて、スポーツ感覚で楽しめるような演出を
考えてみてはどうでしょうか？『お口の筋ト
レ』とか、『顎力を鍛えよう！』みたいな。」

社員 D：「おもしろいですね！それなら、健康
志向の人たちにもアピールできるかも。」

塩田：「それに、SNSで話題になるような『噛
むチャレンジ』を提案してみるのもいいかも
しれません。誰が一番早く噛み砕けるか、み
たいな競争を促してみるとか。」

社員 O：「それはいいアイデアです！若者たち
も参加しやすくなりますし、話題性も抜群で
す。」

塩田：「（心の声）よし、これでなんとか成功
に導けるかもしれない：！」

シーン ④：発売当日

（発売日。店頭に並んだ新商品を見守る塩田と汐。）

塩田…「（心の声）ついに発売日が来てしまつた…。どうなるんだろう…。」

汐…「（嬉しそうに）これでまた一つ、世間を驚かせることができるな。どんな反応が来るか楽しみだ！」

（そこへ、外国人観光客のグループと日本人のカップルが店に入ってくる。）

外国人 A：「オー、これは新しいお菓子ですか？『ビーフジャーキーのように堅いグミ？』おもしろいね！」

外国人 B：「ちよつと試してみようか！これ、ちよつとしたチャレンジになるかもね！」

日本人カップルA:「えっ、これがグミなの？
ビーフジャーキー並みに堅いって、本当か
な？」

日本人カップルB:「話題になってるし、買っ
てみようよ。珍しいものはSNSでウケるか
も！」

(塩田が観察しながら、小さくガッツポーズ
を取る。)

塩田…(小声で) うまくいってる…！話題性
はバッチリだ！」

汐:「見たか、塩田君！俺たちの新しい挑戦が、
みんなに受け入れられてるぞ！」

シーン 6 : 数日後

(数日後、社長室に戻り、塩田と汐が報告を
受けている。)

社員 田：「社長、塩田さん、新商品の反響がすごいです！SNSでも話題になり、売れ行きも好調です！ただ、顎が痛くなるという声もあります。それが逆にチャレンジングで楽しいという意見も多いです！」

塩田：「（安心したように）良かった：社長のアイデアが功を奏しましたね。」

汐：「（満足そうに）よし、これで次のステップに進もう！もっと驚く商品を考えようじゃないか！」

塩田：「（困った顔で）また新たな挑戦ですか？でも、今回はなんとか成功しましたし、次も頑張ります！」

汐：「その意気だ、塩田君！面白いことを続けていれば、結果は必ずついてくるさ！」

（汐と塩田が笑い合う。）

エンディング…

ナレーター…「こうして、汐製菓は新しい挑戦を続け、世間を驚かせるお菓子を作り続けるのであった。次なる商品は一体どんなものになるのか…？ 乞うご期待！」

おわり